

『経営に役立つヒント』

令和八年一月一日

第二百七十二号

一休禪師は「門松は、冥土の旅の、一里塚、めでたくもあり、めでたくもなし」と詠んだと言われますが、私の年齢になると、しみじみと越し方を振り返り、一休禪師の言葉が胸に沁みます。

漢字の「生」の字は、いきる・うまれる・せい・しょう・うぶ（生方）・き（生地）・け（皆生）・せ（早生）・なま（生意気）・なり（生業）等々、二百を超える読み方があるようです。

即ち、生まれてからの生き方は、人それぞれに多様であり、自由であり、自分が好きなように生きれば良いのです。

一方「死」には、音読み訓読みも「し」の一字です。生まれたら、必ず死ぬことが運命付けられています。一人の例外もありません。非常に厳しい現実です。

ならば、この与えられた「生」を、精一杯生きることこそ、天が宇宙が自然が期待している生き方ではないでしょうか。人生、二度なしです。

やるなら決める。決めたら迷わず、どんな困難にも負けず言い訳せずに、乗り越えて行くことです。必ず、道は拓けます。

古語に「続けてこそ道」「続けて行けば道になる」といいます。

茶も華も、剣や柔も、それぞれ何代にも渡り続けたからこそ、「道」になったのです。道には、「真・善・美」があります。だからこそ、命懸けで打ち込めるのです。天と我が一体になったと言うことでしょう。

社長である我々も、それぞれ世に役立つ仕事をしています。それを何年も、何十年も続けています。ならば、それを「仕事道」にまで高めて参りましょう。

その仕事道を、ある人は「経営理念」と言い、またある人は「信念」と言い、またある人は「志」と言います。

「人生は、借りて、返して、チャラ」とも言います。

産まれた時は、授乳から、おむつ換えまで丸抱えで、母親や周囲のお世話になりました。成長し学校に行き、社会に出て、先生や先輩、友人知人に指導助言をして頂き、一人前にならせて頂きました。感謝・お蔭・有り難うという「借りた」塊が、この私です。学ぶ程に、知る程に、その「借りた」大きさに頭が下がります。

ならば「返して」いかなければ、人の道に反します。沢山借りたのですから、沢山返して行かねばなりません。その「返して」いく行為こそが、仕事の真髄の一つではないでしょうか。だから、仕事は価値があるのです。仇や疎かには出来ません。

令和八年が始まりました。社長、笑顔で、明るく、日々の仕事に精を出して参りましょう。素晴らしい人生にして参りましょう。

今月のポイント

「借り」よりも「返す」を少しでも

多く。

